

第5章 施策の展開

第1節 重点目標と3本の柱

重点目標

みんなでつくろう「^{サイクル}おおたけ子育て好循環」

■3本の柱

1 家庭の育児力の向上

家庭は子育ての原点・出発点であり、生活習慣や生活能力、規範意識など、子どもの基本的な資質を育てる重要な役割を担っています。

しかしながら、共働き世帯の増加や核家族化など、家族形態や生活様式の変化にとともに、日常的に親や家族、地域における手助けや見守りなども少なくなりつつあり、保護者の子育て負担はますます大きくなっています。

そこで本市では、子どもを生み育てることの大切さや喜びを伝え、家庭における子育ての重要性を認識していただき、子どもにとって最も身近にいる保護者が責任を持って家庭が担うべき役割を果たすことができるよう、家庭の育児力の向上に努めます。

(1)家庭における子育て力の向上

《現状と課題》

こそだてじゅく「ひよこルーム」を毎年開催し、母親同士の交流・情報交換が図られるように留意するとともに、食育や医療に関する専門的なプログラムも提供しています。また、プログラムの一部をオープンスクール化するなど、誰でも気軽に参加できる内容を企画しています。

総合市民会館（平成24（2012）年度）、栄公民館（平成26（2014）年度）においては、公益財団法人ひろしまこども夢財団の支援を受けて、親子の絆づくりプログラム（「赤ちゃんが来た！」）を開催しています。

また、毎年7月には「市民のつどい」（青少年非行防止実行委員会主催）、11月には「青少年育成講演会」（教育委員会、大竹市PTA連合会共催）を開催しています。

今後の方向性



親の力を学びあう学習プログラムの普及、同プログラムのファシリテーターの育成を行うとともに、PRに重点をおいて参加者増に努めます。
また、青少年育成講演会などの行事に子育て世帯に積極的に参加してもらえるよう、内容の充実や効果的なPR方法などを検討していきます。

(2)仕事と子育ての両立支援

《現状と課題》

保育所（園）については、新たな宅地造成などにより、今後子育て世帯が増加する可能性もありますが、現在のところ、市内の公立・私立保育所（園）に入れられない待機児童はいない状況です。

放課後児童クラブについては、対象児童を小学校全学年に拡充したところですが、直ちに希望するすべての児童を受け入れることは困難な状況です。

病後児保育事業は、平成24（2012）年4月から休止していましたが、独立行政法人国立病院機構広島西医療センターと協議を進め、平成26（2014）年4月に病児・病後児保育室「にっしーくんハウス」を開設しています。

今後の方向性



子ども・子育て支援新制度の中で、仕事と子育ての両立ができ、保護者が心にゆとりを持って子どもと接することができるよう、保護者のニーズに沿った支援事業を実施します。
保育所（園）については、保育ニーズや今後の児童数などを踏まえ、共働き世帯が安心して子どもを預けられる適正な規模の保育所（園）の整備に努めます。

(3)見守りが必要な家庭への支援

《現状と課題》

課題を抱えていると思われる家庭について、保健師、民生委員・児童委員、学校、保育所（園）、幼稚園などと家庭相談員が連携し、普段から見守りを行っています。

今後の方向性



今後も見守りが必要な課題を抱えていると思われる家庭について、各関係機関が連携しながら見守り、必要な支援を行います。

(4)子育てに関する情報提供の充実

《現状と課題》

子育て支援制度などの情報については、市広報・ホームページなどを通じて周知を図っていますが、子育てに関する多様なニーズに対し、必要な情報を迅速かつ過不足なく提供できているとはいえない状況です。

保育所（園）や放課後児童クラブ、子育て支援センターなどの施設においても、子育てに関する様々な情報を提供していますが、必要な情報を各施設で共有し、適切に提供するための連携体制に課題があります。

今後の方向性



ホームページに掲載する情報の整理・充実を図るとともに、フェイスブックなどの情報発信媒体も積極的に活用するなど、必要な情報がすぐに手に入られるよう、行政および関係機関同士の連携を深めながら、情報発信の強化を図ります。

また、各施設などを利用する保護者などに必要な情報を適切に提供できるよう、情報発信における連携・協力体制の見直しを図ります。

(5)食育の推進

《現状と課題》

「食」への関心・興味を高めるため、自分たちでつくる食事がおいしく感じることや一緒に食べることの楽しさを知ることなど、豊かな体験を積み重ねて、生きる力の基礎を養っていく保育を行っています。

給食センターでつくる給食を通して、学校給食を食育の教材として活用し、地産地消など食育の推進を図っています。

今後の方向性



食事は、子どもの健全な育ちを支える基礎であることから、子育て家庭における「食」への関心・興味を促進します。

各学校の授業などにおいて計画的に食に関する指導を行うことで、発達段階に応じて食生活に対する正しい理解と望ましい食習慣を身につけるとともに、学校や保育所（園）の給食において、より地元産の食材が使用できるよう生産者などとの連携を深めるなど、給食を食育の教材として活用することで、食育の推進を図ります。

これらの取り組みを通じて、各家庭において、親が子どもに正しい食習慣を身につけさせることができるようにするとともに、親子が食を通じて心を通い合わせることができるよう努めます。

■3本の柱

2 地域の子育て環境の充実

近年、全国的な課題として地域に暮らす人と人のつながりの希薄化があげられていますが、子どもたちを健やかに育むためには、家庭とともに地域の力も不可欠です。

本市では、子どもたちが地域の様々な人と交流し、ふれあう中で、子どもたち自身の自立と社会性を育むことができるよう、地域全体で子どもや子育てを見守り、支えていける体制づくりを推進します。

また、親子が気軽に利用できる安全・安心な場づくりや関係機関との連携についても進めていきます。

(1)親子や地域の人々が気軽に集まれる場づくり

《現状と課題》

子育て支援センター「どんぐり HOUSE」や松ヶ原こども館に加え、平成 23(2011)年 4 月からさかえ子育て支援センターが開館しています。3 館合わせて年間延べ 15,000 人以上の利用者があり、就学前の子育て世帯にとって必要な場となっています。

児童館については、阿多田児童館と栗谷児童館（休館中）がありますが、地域人口の減少とともに利用者も減少傾向にあります。

街区公園が市内に 50 か所ありますが、休日などに親子が気軽に遊べる大型遊具や駐車場を備えた公園は少なく、「子ども・子育て支援ニーズに関する調査」においても多くの要望が寄せられています。

こそだてじゅく「ひよこルーム」の参加者に対して、継続した交流や自主活動を活発に行えるよう子育てサークルへの移行を呼びかけています。既存の子育てサークルに入会する参加者も多く、親同士の交流の場となっています。

今後の方向性



子ども・子育て支援新制度における地域子育て支援拠点事業として、保護者のニーズも踏まえ、親子が気軽に集える場所や機会を増やしていけるよう努めるとともに、こうした場に関する情報の充実に努めます。

また、親子を対象にした様々な事業への参加を促進するため、各種媒体を活用して積極的な情報発信に努めます。

参加者同士の子育てサークル化を促し、自主的な交流が盛んに行われるような環境づくりも検討していきます。

(2)地域活動の継続・充実

《現状と課題》

各地域では、地区公民館やコミュニティサロンなどの施設を拠点として、自治会をはじめとする様々な団体が活動しており、玖波公民館では、地域課題をテーマに開催した講座の参加者により、公民館・地域・学校の3者が連携した地域を活性化するための取り組みが自主的に行われるなど、地域を支える重要な役割を担っていますが、人口の減少や高齢化などにより、今後地域の担い手が不足することが懸念されます。

地域における子育てを地域全体で支えていくためには、今後地域における活動をどのように維持・充実させていくかが重要となります。

今後の方向性



地域・学校・行政が連携し、「協働」の視点で、地域の課題を掘り起こしながら、地域を活性化させるための取り組みを検討していきます。

高齢化による担い手の不足という問題はありますが、高齢の方々のマンパワーも最大限活用しながら、親子で気軽に参加できるような地域の行事などの充実についても検討していきます。

(3)各種組織・団体活動の活性化と連携

《現状と課題》

青少年の健全な育成を目的として活動する青少年育成市民会議をはじめ、各種組織・団体の多くは、会員の高齢化が課題となっています。

小学生の居場所づくりのため、市内各所で放課後子ども教室を実施しており、栄地区では自主防犯ボランティア団体と連携して体験学習教室を運営しています。今後、他地区においてもこうした連携を広げていく必要があります。

今後の方向性



今後、青少年の参画によって新しい地域活動をつくることや、学校や家庭と連携して青少年の成長を支えることのできる地域力の向上に努めます。

(4)子どもの安全を見守る活動の展開

《現状と課題》

市内保育所（園）において、防犯・交通安全の確保のために交通安全教室や不審者対策訓練などの取り組みを行っています。「こども110番の家」については、年1回PTAで見直しを行っていますが、新規登録宅が伸び悩んでいる状況です。

青色回転灯パトロール車によるパトロールや防犯カメラ（大竹駅・玖波駅周辺、スペイン通り出入り口付近）の設置・運用、広報車による交通安全意識の啓発活動や街頭啓発、市広報による交通安全運動、交通事故情報の提供などを継続して実施しています。

また、子どもの見守りも兼ねて、地域の各団体によるあいさつ運動が行われています。

今後の方向性



市内保育所（園）における交通安全教室や不審者対策訓練などの取り組み強化に努めるとともに、自治会長からの推薦などを視野に入れながら「こども110番の家」の増加に努めます。

青色回転灯パトロールおよび防犯カメラの運用は継続して実施するとともに、青色回転灯パトロール車登録者数およびパトロール実施者数の増加に努めます。

地域の団体によるあいさつ運動など、地域での見守りの輪を広げていくとともに、市民全体で子どもを守るという意識が醸成されるよう、啓発にも力を入れていきます。

(5)保育・教育現場と地域の連携強化

《現状と課題》

近年、保育所（園）、幼稚園および学校などと地域の結びつきは強く、本市においても、保育所（園）や学校での行事などで自治会、老人クラブなど地域住民との交流が行われています。玖波地区における「玖波スクラム」のように、公民館・地域・小・中学校が連携し、各種行事で交流を深めるなど、3者が協働した取り組みの実践例も見受けられますが、学校行事との日程調整に苦慮しています。

また、保護者や地域の人々の学校教育に対する理解と関心を深め、地域全体で児童・生徒を育てていくことを目的に、市内の小・中学校で、公開授業学習発表会、意見交換会など、保護者や地域の協力・参画による取り組みを行っています。

このほか、将来の大竹を担う人材育成の観点から、市内企業などによる中高生の職場体験の受け入れや、「らんらんカレッジ」、「公民館まつり」、「手描き鯉のぼり講座」などの事業において、市内中学校および大竹高等学校との連携などが行われています。

今後の方向性



今後も、行事などを通じて、保育・教育現場と地域との交流・連携に取り組みます。

公民館などの社会教育施設においては、青少年の利用促進につながる各種事業の企画立案に取り組むこととし、地域・学校・行政の連携した取り組みを継続・強化していきます。

(6)地域で子育て世帯を支える意識の醸成

《現状と課題》

人口の減少などによる地域コミュニティの弱体化や地域住民同士の繋がり希薄化などにより、地域行事があっても参加しない家庭や子育てに関する悩みを抱えている家庭など、地域の中で孤立してしまうというケースが見られます。

子育て世帯が、周囲の人間に助けられ支えられているという実感を持ちながら、安心して子育てができるような地域社会をつくっていくことが重要です。

今後の方向性



自治会などにも働きかけながら、「子どもは地域の宝」という認識を地域全体で共有し、地域の子どもは地域で育てるという意識の醸成に努めます。

■3本の柱

3 子どもの心身の充実

子どもの健やかな成長は、子育て家庭における切実な願いであるため、本市では、妊娠期・乳幼児期から健康的な生活習慣を身につけられるよう支援を行います。

また、子どもたちが遊びを通じて互いを尊重し、ルールを学習するなど、社会性を育むことができる居場所づくりをはじめ、スポーツ・文化などに親しめる機会の創出を推進するとともに、様々な悩みや問題を抱えている子どもや保護者の相談に対応し、安心感を与え適切な情報提供ができるよう、相談支援の充実に努めます。

さらには、子どもを取り巻く環境が大きく変化する中で、児童への虐待が社会問題化している現状を踏まえ、子どもの安全と心身の健やかな成長を守るための取り組みを強化します。

(1)母子保健の充実

《現状と課題》

本市では機構改革により、平成25（2013）年度に社会健康課を創設し、健康増進・保健予防に重点的に取り組んでおり、妊娠期および出産後の乳幼児期における母子の保健についても、健康診査をはじめとする各種保健施策の充実や母子の健康増進に重要な情報の積極的な発信などに努めています。

今後の方向性



乳幼児期の健やかな成長と子育てを支援するために、引き続き健康診査や乳児のいる家庭への訪問、育児相談などの各種保健施策の充実に努めます。

また、各種保健事業などを通じて、親子の絆を深め、親同士や子ども同士がふれあう場づくりに努めます。

(2)子どもの居場所づくり

《現状と課題》

放課後児童クラブの対象児童を全学年に拡充したところですが、すべての希望児童を受け入れることは困難だと考えています。

放課後における子どもの居場所の選択肢の一つとして、体験活動などを中心とした放課後子ども教室を開催していますが、カリキュラムの偏りや活動時間の長さなどで、居場所としての機能を十分果たしているとは言い難い状況です。学校との連携や指導者集めなど調整すべき課題も多くあります。

小学生以上の子ども同士で遊べる広い場所が市内に少なく、小学校のグラウンドについては、安全管理などの面から、子どもだけで自由に使用することは難しい状況です。

今後の方向性



放課後児童クラブにおいては、低学年児童の受け入れを最優先にしつつ、高学年児童の受け入れについて、保育の緊急度をみながら、各児童クラブの実情を踏まえ、一人でも多くの児童を受け入れるように努めます。

放課後子ども教室においては、子どもたちにとって十分な居場所となるようコーディネーターや指導者と連携し、カリキュラムや活動時間などの見直しを図ります。また、国の方針に沿って、放課後児童クラブと放課後子ども教室の連携に取り組み、安全・安心な居場所づくりをめざします。

子ども同士が自由に遊べる場づくりとして、小学校のグラウンドなどの活

(3)スポーツ・文化活動を楽しめる場づくり

《現状と課題》

放課後子ども教室では、年間を通じてスポーツ教室を開催し、親子バドミントンなど親子で楽しむ機会も提供しています。また、体育の日には総合体育館を無料開放し、ニュースポーツの体験コーナーなど、親子や友だちで楽しく体験できる場を提供しています。

市民文化祭川柳大会における「ジュニア川柳の部」、「書き初め大会」、「ジュニアコンサート」、「コーラスフェスティバル」など、大竹市文化協会や各種実行委員会と連携して、児童・生徒が文化活動に親しむ機会を提供しています。

今後の方向性



関係団体などとの連携を深め、子どもが参加できる講座などの充実に努めます。

(4)子どもや子育ての悩みに対する相談体制の充実

《現状と課題》

各学校では、こども相談室、家庭児童相談室、民生委員・児童委員などの関係機関と連携しながら、いじめや不登校児童などの対策に努めています。相談業務へのニーズは高く、子どもだけでなく保護者に対するフォローも必要な上、事例により長期化する傾向もあり、関係機関がよりいっそう連携を図っていく必要があります。

また、最近はスマートフォンなどの通信機器が普及し、自宅や自室で孤立感を感じずに過ごすことができるために、相談室を利用する子どもが減少していることから、新たな相談体制を検討する必要があります。当面はメール相談を呼びかけることが現実的ですが、多くの時間を要する上に、インターネット上に相談記録が残るなどの課題があります。

今後の方向性



インターネットの活用や訪問相談など、新たな体制づくりを検討し、学校と家庭との連携を深めながら自立支援を行います。

(5) 児童虐待などの予防の推進

《現状と課題》

育児の負担感や子育て家庭の孤立、貧困、地域の育児力の低下などを背景として、児童虐待が社会問題となっています。子ども・子育て支援ニーズ調査においても、「子どもを虐待していると感じたことがある」と答えた親の割合は、「後でふりかえって虐待だったと思うことはある」を合わせると、就学前では21.5%、小学校では31.8%となっています。

今後の方向性



関係機関と緊密に連携しながら、児童虐待の予防および早期発見に努めます。また、子どもの行動に対する適切な対応を学ぶペアレントトレーニングの充実を図るなど、虐待を発生させないための親の育児力の向上に努めます。

(6) 保育所(園)・幼稚園・学校の連携の推進

《現状と課題》

保育所(園)や幼稚園から小学校に上がる際の環境変化により、様々な問題行動が生じる、いわゆる「小1の壁」を取り除くため、「保・幼・小連絡会」を開催し、年長児を担当する保育士と小学校教諭が意見交換などを行っています。

また、小・中学校の児童・生徒が、学習や生活指導の効果を高めるとともに、自己肯定感や思いやりの心などを養うことを目的として、学校行事などで保育所(園)や幼稚園の児童と交流する取り組みも行われています。

市内小・中学校では、小中一貫教育を推進しており、小方学園では平成25(2013)年度から施設一体型の小中一貫教育が行われています。

今後の方向性



子どもが成長する各段階において、環境の変化にスムーズに順応し、健やかな心身を育めるよう、保・幼・小・中の連携をよりいっそう深めていきます。

